

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル			
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所も地域住民と考え、利用者に合った社会資源を活用し、「馴染みの環境でゆったり」となっている。	
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに掲示し、いつでも目を通して職員で共有できるよう職員会議でも話し合いをしている。	
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域交流室を使用される方々に見てもらえるよう掲示して理解を求めている。	
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会、子ども会の会合に地域交流室を使用していただき、日常的な付き合いが出来るよう努力している。	
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流室を地元自治会に開放し、一緒に会議などに出席している。	
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケア連続研修を開催し、地域の住民にも参加を呼びかけている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通じ、実践の振り返り、事業計画等に反映している。	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	職員の紹介、提案箱の設置等、会議での意見を取り組んでいる。	
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会を立ち上げ、年2回懇談会を開催している。千葉市の施策として出前講座も活用している。	
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し知識などを習得し、必要に応じて活用できるよう準備している。	○ 研修には一人でも多く参加させ、職員全体で共有していきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃、マニュアルに基づき、内部研修を開催し職員に徹底している。	○	職員のストレス防止にも気配りを行いたい。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族への説明は不安のないよう、納得いくまで説明している。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に話せる雰囲気作りをしている。毎月一回千葉市介護相談員の受け入れを行い、運営に反映させている。		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との信頼関係を一番に考え、利用者の生活状況を毎月送付している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットごとに提案箱を設置して意見を反映させると共に行事等の後に家族会も行っている。		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回運営会議を開催し職員の意見を反映できるよう努めている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤職員1名(計画作成担当者)をフリーな立場で雇用し柔軟な対応ができるようにしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理念に掲げている馴染みの職員による支援は認知症にとって大切なので配慮している。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課表の評価により適切な内部の研修参加を進めている。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会を立ち上げ、全体交流会をはじめ、毎月一回研修会を開催し室の向上をさせる取り組みをしている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会を発足させ、職員同士の交流や行事に参加する機会を多くしている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課表を年2回実施し、各自の向上心を把握し、運営に反映させている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前に本人に直接会う機会をもうけ、よく話を聞き、不安の解消に努めている。お話の中から、本人の主訴を把握し、表面に表れない部分も汲み取れるように努めている。その際に聞いた希望をもとに、受け入れ準備を行っている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前に家族に直接会って話をする機会をもうけ、これまでの生活歴や現在の暮らしぶりを伺い、家族として利用者が望む暮らしについてどのように考えるかを確認している。その際に聞いた希望をもとに、受け入れ準備を行っている。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時によくお話を伺い、その時必要なサービスを見極め、グループホームの利用が適切かどうか判断している。必要に応じて他の事業所等の紹介をしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して過ごしていただけるように、利用者本人の能力や個性を把握しながら徐々にサービスを提供している。年齢や性格から気の合いそうな方と食事の席を近くにしたり、他の利用者と過ごす機会をもうけ、仲間作りができるよう配慮している。	○	利用開始前にも見学等遊びに来る機会をもうけ、入所前から場の雰囲気に慣れるように援助したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と同じ立場で生活できるよう意識しながら、コミュニケーションに努め、家事や生活の援助を行っている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来苑時に、本人の生活状況や気がついたことを伝えて、家族の意見を聞いている。本人に変化があった時はもとより、日々の様子を記した手紙を毎月家族へ送っている。	○	今後も家族と情報を共有し、一緒に本人を支える関係を築きたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係を見極めながら、行事に誘ったり、良い関係が継続できるよう援助している。本人の家族への要望を代弁することもある。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
30		馴染みの人や場との関係 継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が気軽に遊びに来れる雰囲気作りに努めている。	○	年賀状等の手紙を書いたり、面会や外出の協力をお願いしていきたい。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食卓での声かけを支援したり、利用者同士が気遣えるよう支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	サービス利用が終了しても、行事に誘うなど継続的に関われるよう努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを様々な生活場面で聞き取り、把握に努めている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活習慣、これまでのサービス利用の経過などを入居前に家族に記入してもらったり、本人や家族から聞いたりしている。入所後も必要に応じて家族から聞き取りを行ったり会話の中から引き出すように工夫している。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のケース記録や申し送り等から本人の状況を把握し、対応できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	6ヶ月に1度、介護計画を更新している。全員で集まることができないため、担当者会議に参加できない職員の意見はケアマネが個別に意見を聴取し、介護計画に反映している。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて会議を開き、新たに介護計画を作成できるよう努めているが、急な変化には対応できていない。	○	本人に変化が生じた際には、すみやかに介護計画を変更できるようにしていきたい。
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、排泄チェック表等、入居者一人ひとりの様子や変化を個別に記録し、介護計画の見直しに活かしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、訪問マッサージやデイサービスを利用したり、併設施設の医務室へ健康上の相談をしに行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	絵付けのボランティアなどを受け入れている。警察・消防とも協力して支援している。	○	今後はもっと多様なボランティアを受け入れていきたい。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向に沿って、訪問マッサージや併設事業所のデイサービスなど他のサービスが利用できるよう支援している。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが同じ法人内にあるため、必要に応じて相談、助言をもらう体制ができています。		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医に、通院・往診できるよう支援している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、認知症に知見の深い医師に相談しながら支援している。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設施設の看護師に相談、助言をもらいながら健康管理を行っている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院している医療機関に出向き、主治医や家族と相談し、できるだけ早期に退院できるよう努めている。また、退院へ向けての受け入れ態勢を整えるように調整している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	本人や家族と話し合っていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	早急に取り組んでいきたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅にもどるのにあたり、家族やケア関係者間で十分な相談、情報交換を行い、本人の生活に支障がないように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員個々に気をつけ、お互いに注意しあうよう努めている。排泄介助は他者の前では行わない。家族面会等も居室で話ができるよう支援している。個人の記録について、入居者の前で記載することもあるが、扱いには十分注意している。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣類の選択、おやつ・食事の際の飲み物の選択など、日々の生活の中で自己決定できるような場面を作り、支援している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりが個性や主張を大切に自由な暮らしができるよう、本人のペースを大切にし、希望にそった支援ができるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の自由にまかせているが、難しいときは一緒に話をしながら服を選んだり、化粧や整髪の支援をしている。希望によって訪問理容を利用したり、家族と一緒に本人の希望する美容院へ行けるようにしている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は職員が主に準備や後片付けを行っている。職員も一緒に食事をとり、楽しい食事環境づくりを心がけている。	○	利用者の状況を見ながら、準備や片づけを一緒に行っていききたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつなど、本人の好きなものを冷蔵庫で預かり、本人の希望するときに提供できるよう支援している。お酒も、本人や家族と相談しながら、夕食時に晩酌できるように支援している。		
56		気持よい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、なるべくトイレで排泄できるよう声かけ・誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯が決まっている中ではあるが、希望を聞きながら入浴できるよう支援している。入浴の意思を表さない方には、声をかけて入浴を勧めている。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状況に応じて、休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力、好みに合わせて、家事の手伝いやレク活動に参加できるよう支援している。	○	今後も利用者の好みを把握し、生活の中で役割や楽しみが見つけれられるよう支援していきたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて、個人で金銭が管理できるよう支援している。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の体制が十分なときは散歩に行ったりしている。施設周辺は交通量が多いため、職員が必ず付き添うなどの安全が確保できないと難しい。	○	気候の良いときはなるべく散歩などに行けるよう支援していきたい。
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回、希望する利用者と一緒にドライブに行くなどの支援をしている。	○	外出する機会を増やしていきたい。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合には電話をしたり手紙が出せるよう支援している。	○	年賀状や暑中見舞いを出すなどの支援をしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる雰囲気作りにつとめ、なじみの人たちが来苑したときは居室でゆっくり過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に職員が参加し、その知識を活かして、身体拘束のないケアに取り組んでいる。現在、身体拘束は行っていない。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前の部屋に、徘徊して外出すると帰って来れない利用者が入居している。そのため、職員の見守りが十分ではないときは玄関を施錠している。	○	施錠しないでケアする方法を検討していきたい。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく見守りを行い、所在の把握、安全確認を行っている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの保管・管理能力に合わせ、安全であることを確認した上で、利用者本人が保管・管理できるよう支援している。安全が確認できない場合は、保管場所で預かり、事故防止に努めている。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合は報告書を作成し、職員全員が情報を共有できるよう努め、予防策を検討している。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が救命救急の研修に参加し、応急手当・初期対応の訓練を受けている。	○	急変や事故発生時に備え、施設内でも研修を行っていきたい。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、併設施設や消防署の協力を得られる体制作りを行っている。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の面会時などに一人ひとりに起こりうるリスクについて説明し、安心して暮らせるよう支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日ごろより一人ひとりの変化の発見に努め、変化があった場合は記録に残し、全職員が共有できるようにしている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が内服している薬の情報をファイルし、把握できるよう努めている。服薬忘れ・ミス等ないよう、一人ひとりの能力に合わせ支援している。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量や食事摂取量の管理、下剤の調節、排便チェックなど、便秘が予防できるよう支援している。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に応じて口腔内の清潔が保てるよう支援している。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量にムラがある場合はチェック表を作成し、十分な量が確保できるよう食事の形態や内容などを工夫して支援している。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	排泄後の手洗い、おしぼりの消毒、インフルエンザの予防接種。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に食器の消毒、冷蔵庫内の清掃・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自動ドアで自由に出入りできるようにしている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって掲示物を変えたりなどして、季節感を感じられるよう工夫している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のソファ、玄関前のベンチなど、共用の場所でも思い思いに過ごせるよう工夫している。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の好みのもや写真・家具などを置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・エアコンの温度の調節を心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行の方でも車椅子の方でも安全に過ごせるようなゆったりとした段差の無い作りになっており、トイレや風呂場にも手すりを設置しており、一人ひとりの能力に応じて利用できるよう工夫している。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのできること、できないこと、理解力などを把握し、必要なときに必要な支援ができるように配慮し、安心して暮らせるように支援している。		
87		建物の外周や空間の活用	建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節によってベランダに花を植え、水やりや鑑賞が出来るようにしている。		

(様式1)

自己評価票(渚)

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいの ☐ ③利用者の1/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☒ ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☒ ①ほぼ全ての家族と ☐ ②家族の2/3くらいと ☐ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☒ ①ほぼ毎日のように ☒ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☒ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☒ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない